



インターフォー 上席副社長
バート・ベンダー 氏

今年には北米製材市況り、前年並みの供給量の低迷と丸太コスト高を維持できた。顧客とで難しい1年だった。のコミュニケーションだが、日本向けは新たなをより密にし、品質の開始した取引もあ安定化と需要に沿った

インターフォー(カナダBC州)のバート・ベンダー上席副社長(セールスマーケティング)が来日し、本紙のインタビューに。12月末で退任するダンカン・デビス社長とともに主要な取引先を訪問し、社長交代後も同社の日本向けの供給姿勢が変わらないことを説明したという。ベンダー副社長は「引き続き安定供給に力を注ぎ、顧客との信頼関係を深め、ビジネスをサポートしていきたい」と話す。

信頼関係維持し、安定供給に注力

サザンパインの提案も強化

供給に努めた結果、我々の製品を選んでもらえたのだと思う。北米市場の不振は天候不順の影響が大きかったが、中・長期的な木材需要は悪くないと見ている。米国の住宅着工は回復しつつあり、工場閉鎖などによ

って供給も絞り込まれC)の減少に伴う丸太施してきた経緯もある。米国による関供給の減少により、生税の問題は当面続く産コストは上昇しているが、当社ではそれに対するための準備はしている。C州沿岸、米国西海カナダBC州内陸は岸、米国南部と4つの年間許容伐採量(AA)地域で様々な事業を展開している。C州沿岸、米国西海カナダBC州内陸は岸、米国南部と4つの年間許容伐採量(AA)地域で様々な事業を展開している。



開しており、多様な対応が可能だ。BC州内陸の3工場はSPFだけでなく、カナダツガや米松、ウエスタンレッドシダー(WRC)と多様な樹種を持つ強みがあり、今日の状況を見据えて最新鋭の設備投資を実行している。9月に発表したBC州沿岸のハモンド工場(WRCの専門工場)の閉鎖は難しい決断だったが、WRCは内陸でも製材しており、沿岸のWRCも丸太事業と取引は継続する。このため、エーコン工場への丸太供給をより安定させることができ、日本向けの供給を一段と充実させられる可能性がある。

9月に発表したBC州沿岸のハモンド工場(WRCの専門工場)の閉鎖は難しい決断だったが、WRCは内陸でも製材しており、沿岸のWRCも丸太事業と取引は継続する。このため、エーコン工場への丸太供給をより安定させることができ、日本向けの供給を一段と充実させられる可能性がある。